目　次

1面　第29回千葉市Ｐ連研究大会
2面　平成28年市Ｐ連新年情報交換会
　　平成27年度表彰
3面　区Ｐこの1年を振り返って
4面　おやじ学校へ行こう！
　　会長のつぶやき
　　安全互助会説明会・お知らせ
　　編集後記

市P連 CHIBA ちば

ホームページ　千葉市PTA連絡協議会　検索

第68号
平成28年3月4日発行
発行
千葉市ＰＴＡ連絡協議会
〒260-0026 千葉市中央区千葉港2-1
千葉中央コミュニティーセンター5Ｆ
ＴＥＬ　043-245-5863
印刷　㈱集賛舎

第29回 千葉市Ｐ連研究大会

千葉市Ｐ連研究大会が平成27年11月19日（木）、千葉市文化センターアートホールにて開催されました。“育もう　子どもの心に夢と希望とやさしさを”の大会スローガンのもと、430名が参加しました。子どもたちが安全で楽しい学校生活を送れるよう、今起きている社会現象を正しく認識し、保護者と教職員が共に協力しあい、子どもたちを見守り支える活動をめざして、集い学びました。

市Ｐ連斉藤克信会長は、「今、子どもたちは多くの不安を抱えています。それらの不安に対してＰＴＡがきちんと向き合い、できることをできるタイミングで実行することにより大きな変化が生じると思います。この大会がＰＴＡ活動のヒントになれば幸いです。」と挨拶しました。

続いて、千葉市長　熊谷俊人様をはじめ来賓の皆様より祝辞を賜り、大会決議宣言を行いました。大会決議宣言では、子どもたちを安全で健やかに育むためには、家庭・学校・地域社会の連携が重要であること、「守ろういのち」「守ろう心の絆」を合言葉に子どもの安全安心づくりに取り組むことなどを再確認しました。

記念講演は、小森美登里氏による「いじめって何ですか？」～いじめに対する大人の認識を考える～というテーマの話でした。小森氏は高校入学間もない一人娘をいじめによる自殺で失ってから、いじめが社会の大きな問題であることを知り、いじめのない社会、あたたかい教室と学校をめざして、さまざまな活動を行っています。大人がいじめは加害者問題であることを認識し、加害者に寄りそうことが問題解決のカギであると語っていました。

子どもたちが健やかに育つためにＰＴＡができることを、改めて考えるきっかけとなった研究大会だったと思います。

大会宣言決議文

少子高齢化、いじめ、不登校、貧困、地域における連帯感の希薄化や、人と人とのコミュニケーション不足の一方でソーシャルメディアの発達など社会の大きな変化に伴い、子どもたちや我々大人を取り巻く環境が大きく変化し、人々の教育そのものに対する考え方も多様化しています。また、社会全体の規範意識や自己統制力もますます低下してきています。さらに自然災害をはじめ、事件・事故等による「かけがえのない　いのち」を失う報道がたえません。今、子どもたちを安全で健やかに育むための家庭、学校、地域社会の連携が強く求められています。私たち大人も自ら果たすべき役割や、あるべき姿を見いだすことが必要です。

私たち PTA は「教育の原点は家庭から」を再度確認し、家庭教育の大切さを改めて見直すとともに、子どもたちに基本的生活習慣を身につけさせたいと思います。そのために「明るいあいさつ」と「楽しい朝ごはん」運動を展開します。また、「守ろういのち」「守ろう心の絆」を合い言葉に、子どもの安全安心づくりに取り組みます。そして常に子どもたちを中心に据えて、子どもたちの心に夢と希望を与え優しさを育みながら「活力ある PTA・行動する PTA」として実践活動をしていきます。

そこで、以下のようなスローガンと共に、PTA 活動をいっそう推進するために次のとおり決議します。

スローガン
“育もう　子どもの心に夢と希望と優しさを”

○　家庭・学校・地域が互いに連携し、心身ともに健全な子どもを育む PTA 活動を展開する。
○　子どもたちが安全で安心して成長できる教育環境の整備・充実に向けた PTA 活動の推進に努める。
○　PTA 活動のいっそうの充実を期して、組織運営の強化を図るとともに、会員の資質と連帯意識の向上に努める。

平成 27 年 11 月 19 日
第 29 回千葉市 PTA 連絡協議会研究大会

第29回　研究大会　基調講演

「いじめって何ですか？」～いじめに対する大人の認識を考える～

NPO法人ジェントルハートプロジェクト
理事　小森　美登里

小森氏は、２００２年にジェントルハートプロジェクトを立ち上げ（翌年ＮＰＯ法人となる）、現在はその理事をされています。氏は、ご自身のお嬢様をいじめによって亡くされていて、いじめのない社会、あたたかい教室と学校を目指し活動をされています。また、いじめに関しての著書もたくさんあります。

今回の公演は、ご自身のいじめへの対策の失敗を活かしてほしいとの言葉から始まりました。

一つ目の失敗は、子どもの様子がおかしいと思っても、しばらく様子を見ることにしてしまったことです。子どもが親に打ち明ける頃には、すでに心の傷はとても深くなっているからです。

二つ目は、メンタルクリニックに行き、安定剤を飲んだことです。しかしいくら薬を飲んでも、いじめを止めなければ解決しません。

その時、いじめの問題は、加害者問題なのではないかと思ったそうです。でも、いじめにあって相談した時に、「いじめられたあなたにも原因がある。」と言われることがあります。被害者責任論がいかに傷つくか。被害者が弱いからいじめられるという理論は間違っています。また、大人の半数が「いじめられたら仕返しをしてもよい。やられたらやり返せ。」ということを、よいと思っていることも問題です。それはとても危険な考えです。

しかし、加害者の中にもいろいろな問題が潜んでいる場合があります。いじめを止めると自分がいじめられるかもしれない、という恐怖を持っている子もいます。いじめをやらされている子もいます。「ただ、楽しかったから」というところまで至ってしまった子には「自分がされたら嫌でしょう。」という言葉は届きません。いじめに関しても、早期発見・対応が大切です。そして、地域で連携をして、加害者への寄り添い方を考えることも必要です。

お嬢様が亡くなられる４日前にはっきりおっしゃったそうです。「優しい心が一番大切なんだ。」と。一人一人が少しずつでも優しさについて考えるだけでも、いじめの問題は改善に向かうのではないかと思います。

小森氏は最後に、「いじめは加害者問題」であると認識し、「あきらめない」を合言葉に頑張っていくと話されました。

平成28年 市P連 新年情報交換会

平成28年千葉市P連新年情報交換会が、1月30日（土）、アパホテル＆リゾート　東京ベイ幕張にて開催されました。今年に入って1、2位を争う寒さの中、市内107校（中学校37校、小学校70校）より、過去最多の341名の参加者が、会場を埋め尽くしました。

第一部「情報交換会」では29のテーブルごとに「地域自慢～学校とのつながり～」をテーマに、活発な情報交換が行われました。

各テーブルでは校長先生、教頭先生、保護者がグループに分かれ、一つの発表に対し、様々な角度から意見を聞くことができました。

会の最後には、いくつかのテーブルより、話し合われた内容を報告する時間が設けられ、それぞれ特色ある地域自慢を発表しました。

以下に一部をご紹介いたします。

・神社、寺のお祭りで、神輿を担いだり、山車を引いたり、子どもたちにも積極的に参加してもらっている。自分たちも伝統を引き継いでいきたいという思いが芽生えているように感じる。

・セイフティーウォッチャーをはじめ、保護者や地域の方々が、子供の登下校を見守ってくれている。小学生の頃から挨拶することが自然な子どもは、中学生、高校生など思春期に差し掛かっても元気に挨拶してくれることが多いように思う。

・登下校の安全を守るため、グリーンラインや立て看板の設置など行ってくれている地域もある。

・地域の運動会、夏祭り、文化祭、餅つき大会など、育成委員会、スポーツ振興会、こども会などと協力し合い行っている。

・近隣高校とのつながりがあり、夏休みなどに高校生が小学生に勉強を教えに来てくれる。

・地域の方に田んぼをお借りし、5年生で学習する稲作を、田植えや稲刈りなど体験することで、より深めている。

・放課後子ども教室では、地域の方が昔遊びや伝統文化を教えに来てくれる。

同じ市内でも、それぞれの地域に根付く伝統や文化、慣習などにより、行事の内容や保護者の関わり方に違いがあり、お互いにそれらを知る良い機会となりました。

また、PTAは数年で役員交代や先生方の異動がある中、地域の方の継続的な活動により「地域自慢」が生まれ、家庭、学校単位を超えて子供たちを気にかけてくれている方がいるという安心感が得られるのだと感じました。

しかし一方では高齢化による行事の運営継続の難しさ、防災面での連携に不安要素があるなどの意見もあがり、学校と地域とがお互いに協力し、補い合うことで、より良く、新しい「地域自慢」が生まれるのではと思いました。

第二部「懇親会」では、熊谷俊人市長をはじめ、多くの来賓をお迎えし、ご挨拶を頂戴しました。

後半の各区PTAの紹介では、第一部での真剣な眼差しが一転、各々力のこもったパフォーマンスから、普段の団結力を垣間見ることができました。

多くの方が初対面の中、PTAという共通の話題をきっかけに、交流は終始和やかに行われ、熱気を帯びたままの閉会となりました。

平成27年度表彰

社会教育功労者顕彰

稲毛区	行方	千江子	轟町中学校
稲毛区	太田	公治	小中台南小学校
中央区	水野	早苗	仁戸名小学校
中央区	渡部	麻里	葛城中学校
若葉区	中口	保彦	大宮中学校
若葉区	安藤	信彦	若松中学校
若葉区	青柳	徹	桜木小学校
若葉区	中村	園美	大宮中学校
若葉区	石井	広子	千城台南中学校

（敬称略）

日本PTA 寺本会長（中央）と共に

日本PTA会長賞

（団体）　松ケ丘小学校PTA
（個人）　川島　あけみ　　行方　千江子　（敬称略）

松ケ丘小PTA 大橋会長　行方千江子氏　川島あけみ氏（左から）

千葉市PTA小・中学生総合補償制度
（傷害総合保険・自転車総合保険）

毎年4月1日から
1年ごとの自動更新
2016年度　現在募集中

・自転車事故はもちろん、日常生活でのケガや病気（注）を24時間
（注）Dコースにご加入の方のみ対象となります。
・熱中症、0-157にも対応した充実した補償内容
・通常でご加入いただくよりも割安です。

※このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については、取扱代理店または千葉中央支社までお問い合わせください。
お問い合わせ先　　フリーダイヤル　0120-882-774　（受付時間：平日午前9時から午後5時まで）

【取扱幹事代理店】
損保ジャパン日本興亜保険サービス株式会社
〒260-0028　千葉県千葉市中央区新町18-10

【引受保険会社】
損害保険ジャパン日本興亜株式会社　千葉支店千葉中央支社
〒260-0026　千葉県千葉市中央区千葉港8-4

区Ｐ　この１年を振り返って

＊　中央区Ｐ連会長　植村　真　＊

まずは区Ｐ内からのご支援により活動推進できましたこと感謝申し上げます。今年度も単Ｐの上部組織として「今できること」を考え、工夫を積み重ねてきました。

一例として広報活動をご紹介します。当会では広報紙の代わりにホームページを利用しています。従来は更新しにくく閲覧数も少ない状態でしたが近年大きく改善してきました。今年度はイベント告知バナーを追加するなど随時情報を発信できるＨＰになりました。

この例に限らず活動の改善には継続するための仕組みと各年度の担当者の工夫の積み重ねが鍵であったと実感する次第です。今後もメンバーの特技を持ち寄りながら単Ｐ間のハブとして楽しく活動していきたいと思います。

中央区Ｐ連ホームページ

＊　若葉区Ｐ連会長　笹川　貴弘　＊

平成27年度を１年間振り返り…。

この度、私は若葉区ＰＴＡ会長という大役を仰せつかりました。私自身その器ではなく、また一介の会社員ということで時間的にも裁量に限界がある身分でございますが、保護者の一人として、最近の子供たちを取り巻く環境を思う時、微力ながら私でも何かのお役に立てるのならと、この大役を引き受けさせていただきました。

本年度の若葉区ＰＴＡ活動は、ご経験豊かな皆様の絶大なるご協力・ご支援のお陰で素晴らしい活動が出来たと思います。また役員の皆様方には、一年間大変お疲れ様でした、という感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。来年度以降も、諸先輩方の活動を引き継ぎ、良き「若葉区ＰＴＡ」になりますよう願っております。

最後に一言、

「子は宝です」

＊　稲毛区Ｐ連会長　三友　徹　＊

私事ではありますが、区Ｐ連会長を拝命したのが２回目と言うチャンスを頂きました。

前回の反省で稲毛区は皆さんやる気はあるが、横の連携が少し足りないかなというふうに感じていました。そこで数年前から提案をさせて頂いていた懇親会を実施することにしました。女性会長が多い事情から日程配慮（したつもり）し、今年度２回実施する事ができ、中々話せなかった事などたくさんの意見交換や、悩みの相談など色々な話が出来たと思います。参加校は全校とは行きませんでしたが、風通しが良くなったように感じます。来年以降も続くことを願っております。

１年間、稲毛区の皆さんありがとうございました。

＊花見川区Ｐ連会長　髙橋　舞子＊

たくさんの方々の温かい言葉掛けやご協力のもと、一年間楽しく活動する事ができました。

中でも、九月に開催したゴムバレーボール大会。三つのブロックを勝ち上がった精鋭四校がぶつかり合い息をつかせぬ熱戦を繰り広げました。私たち役員も、熱気にあふれる大会を無事終える事ができ、ホッとすると同時に、結束力が一段と強まった気がしました。

花見川区では、三回の理事会で毎回グループディスカッションを行っています。テーマが同じようになってしまいますが、ベテランの方から経験談を聞く事のできる、いい機会だと私は思います。実際、私もたくさん参考にさせていただきました。このまま続けていって欲しいと思います。

＊　緑区Ｐ連会長　清水　雄一　＊

３年目の緑区Ｐ連で、流れは分かって来ていたものの、幹事校ともなると発信する側となりメンバーも含め学校外で緊張せざるをえない場面が増えました。一番の大きな行事であるバレーボール大会に向けての準備、そして大会。その後の反省会に至っては12月まで引ずって議論し「来年度は新しい方向性を試す」という結論を出しました。11月の「緑区ふるさと祭り」では、ペットボトルロケット制作＆打ち上げを担当。その後は小忘年会、恒例の盛り上がり新年情報交換会を経て、現在は市Ｐ新年情報交換会の出し物の練習中です！気が付けば「緊張」する事も忘れ、皆さんに助けられながら、笑いあり、勿論真面目ありの「緑区Ｐ丸」という船が自然な良い流れに乗っていると感じています。

緑区Ｐ連バレーボール大会
幹事校（誉田東小）スタッフ

＊　美浜区Ｐ連会長　福岡由美子　＊

27年度、真砂中は美浜区の当番校として市Ｐ会議に出席させていただき、他校の活動報告や情報交換から、いろいろと勉強させていただきました。

また、「知ろう話そうＰＴＡ」「新任ＰＴＡ役員研修会」「関東ブロック大会」「市Ｐ連研究大会」にも出席させていただき、ＰＴＡとは何だろうか、私達ができることは何だろうか、私達がやるべきことは何だろうかと改めて考えさせられました。

ＰＴＡ加盟校の少ない美浜区で、様々な行事に参加するのは大変なことですが、皆様にご理解、ご協力いただき活動出来たこと、感謝いたします。一年間、ありがとうございました。

「小・中学生総合生活保障制度」

（こども総合保険・自転車総合保険）

小・中学生総合生活保障制度は、千葉市PTA連絡協議会会員の皆様を対象とした制度として、多くの方々に加入いただいています。ご不明な点があれば、お気軽にお問い合わせください。

引受保険会社　**AIU損害保険株式会社 千葉支店　☎043-350-3170まで**

千葉市美浜区中瀬2-6-1　WBGマリブイースト21F（営業時間　9:00～17:00 土・日・祝日・年末年始を除く）

推薦　千葉市PTA連絡協議会

おやじ学校へ行こう！

平山小学校 平山小親子の会 代表　三谷　聖治

平山小親子の会は、【子供たちの為に出来る事】をモットーに平山小おやじの会（平山ヒーローズ）として平成24年度設立。お母さん方の参加もあり平山小親子の会に改名。43名の素敵なメンバーがハッスルしています。運動会では子供たちに良い所を見せようと全力疾走、ケガ人続出。ソフトボール大会では普段使わない筋肉を酷使、ケガ人続出。しかし、各学期の前には校内の草をやっつけ、夏の流しそうめんで子供たちを笑顔にし、バザーではボランティアとしてカレーライス、綿あめ、揚げ菓子を手作りするなどイベントで大活躍。活動後の打ち上げは親子で参加、楽しく親睦を深めています。以後、お見知りおきを！

みつわ台中学校 おやじの会 会長　近石　直希

みつわ台中学校おやじの会は、今年度で発足9年目を迎えました。普段、学校への関わりの持てないお父さん方を中心とし、学校への関心をお持ちいただくと同時に、学校教育活動への協力を進んで参加することをモットーにしています。今年度は11名のお父さんたちが会員になってくれました。

7月には、七夕の笹の設置を行い、葉が地面に付くほど、短冊が飾られていました。8月は先生方、環境部合同で、夏祭りのパトロールを行いました。10月にはメインイベントとも言えるバザーの出店があり、タコスを販売しました。バザー委員のお母さん達の協力もあり、完売することができました。これからもみつわ台中学校の為に様々な活動を続けていきたいと思います。

会長のつぶやき

日頃よりお世話になります。会長の斉藤克信です。時間が過ぎるのは早いですね。年のせいなのか？さて、前回もご紹介しましたが、あり方を考える「あり方委員会」について書かせて頂きます。

そもそも、この委員会を発足した想いとは。日本が抱える将来の社会問題に対して、今のままでは、ＰＴＡそのものが成り立たないと感じたからです。例えば、どの学校も何十年と大きな会則等、ルールが変わっていない。そのため、不都合が生じていると感じています。

これは、一つの考え方ですが、ＰＴＡという意味を幼稚園児に説明するとしたら、皆さんはどうされますか。たぶん、重たく、難しく考えてしまうのではないでしょうか。私は、学校（子供たち）の応援団（サポーター）です。と答えると思います。

まずは、あり方を考えるポイントとして、何のために、ＰＴＡという組織があるのか。何が必要なのか。という木々で例えるならば、幹をしっかりと作らねば沢山の枝も作れず、大きな木として成長させることはできないと考えています。

この基本的な考え方に基づき、各区より代表者を集って頂き、月1回の会議を開催しているのです。しかし、議論を進めると大きな壁にもぶつかっています。

地域性、児童数など、学校それぞれの特徴があるからです。当然ＰＴＡの原点は、単位ＰＴＡですから、この特徴を支えるためにも、区Ｐや市Ｐのあり方を考えることから何かが見えてくるかも知れません。

今、あり方に関する結論がでている訳ではありません。引き続き、皆様のご意見ご要望を頂戴したく、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

さて、個人的な話に変わりますが、相手の事を考えること。自分以外は自分ではないこと。という基本的なことが出来なかった為、深く反省をしています。特にＰＴＡ活動においては多くの方々と接しながら活動しておりますから、皆様も後悔されないよう、人間としても基本姿勢は忘れずに、活動頂ければと存じます。上手く、まとまりませんでしたが、２０１６年も素晴らしい年となるよう、会員の皆様のご活躍を祈念いたしまして結びとさせて頂きます。

最後までご覧頂きありがとうございます。

安全互助会説明会

1月20日、千葉市ＰＴＡ安全互助会説明会が、千葉中央コミュニティセンターで開催され、多数の参加がありました。保険会社と代理店からＰＴＡ総合補償制度（下記参照）について賠償保険や提出書類など細かい説明がありました。普段疑問に思っていたことも解決できたのではないでしょうか。質疑応答では、具体的な例にもとづいての質問が多く出て、関心の深さがうかがわれました。

千葉市ＰＴＡ安全互助会の『ＰＴＡ総合補償制度』

ＰＴＡ安全互助会の『ＰＴＡ総合補償制度』とは、ＰＴＡ活動中の児童・生徒・ＰＴＡ会員の傷害事故、および第三者への損害賠償責任を一世帯あたり120円で補償する制度です。

〈補償されるケース例〉

- ＰＴＡ主催のバレーボール大会の試合中に足首をねんざして通院した。
- ＰＴＡ主催のサッカー大会でシュートした球が外へ飛び出し、駐車中の車のボンネットをへこませてしまった。
- ＰＴＡ活動中、熱中症で入院した。

４月には新年度の加入申し込みのお知らせが各学校へ届きます。

ＰＴＡ活動中の万が一の事故のために、ぜひご加入ください。

編集後記

さくらももうすぐ咲く
しん学、進級の
すてきな季節となりました。
せんぜん員で力を合わせ
そう意工夫し、編集しましたので
ご覧ください。

（広報委員一同）